

コスモス ニュースレター EMC & 安全

Cosmos Newsletter on EMC & Safety

発行日 2021-05-01

No. 130



株式会社 コスモス・コーポレーション Cosmos Corporation

〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地-1

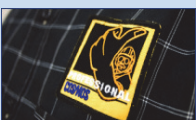
<https://www.safetyweb.co.jp/>

記事の配列は、概ね、国際規格を最初におき、米、欧、オセアニア、アジアの順です。

コスモス ニュースレター EMC & 安全

目次

エグゼクティブサマリー Executive Summary	2
IEC: 規格解説: CISPR 14-1 Ed. 7.0 (2020-09) 家庭用器具、電気工具等 - エミッション(1/2) ...	3
IEC: 規格解説: 更新版 IEC 規格による機械類の機能安全の確保: IEC 62061 の第 2 版を発行	9
IEC: 新規格リスト	10
ISO: 新規格リスト	12
UNECE: 車両規制の整合化のための世界フォーラム: 第 183 回セッション報告書(1/2)	13
国際テーマ: Nemko が無線機器の英国(UK)承認機関としての認定を取得	15
国際テーマ: ETSI が「IoT ウィーク 2021」をバーチャルで開催	16
国際テーマ: 欧州のエネルギー・環境要求事項に関する最新情報	16
国際テーマ: オーストラリアとニュージーランドの市場参入要件	17
国際テーマ: コスモス・ニュースから各国認証関連情報を再掲	18
USA: FCC: KDB: TCB が機器認可の承認を出す前に FCC ガイダンスが必要なデバイスとは? ...	19
USA: FCC: Part 2, 20, 68: 補聴器両立性携帯電話機に関する FCC 規則の改正	19
USA: FCC: Part 15: 子供を守るための車内高温センサーを承認	20
USA: FCC: Part 15, 74: テレビ帯などにおけるワイヤレスマイクロホンに関する規則を改正 ...	21
USA: CPSC: 有害物質の危害注意ラベル: 毒性試験の代替試験方法と統合試験アプローチ	21
USA: DOE: エネルギー貯蔵グラウンドチャレンジロードマップを発表	22
USA, 日本: 国際エネルギースタートプログラム: 制度要綱と運用細則の発表	22
USA: DOE: 省エネプログラム: 最近の連邦官報による通知	23
USA: ANSI/UL: 新規格リスト	24
USA: IEEE: 新規格リスト	26
カナダ: SRSP-331.8 — 31.8~33.4 GHz の帯域で動作する固定無線システムの技術要件	26
カナダ: 通知: 6 GHz~300 GHz の範囲の無線周波電磁界に対する局所的な人体曝露限度値	26
EU: EMC 指令, 個人用保護具指令: 整合規格サマリーリスト更新	29
EU: 車両等の型式承認関連で 2019/2144 の適用に関する委員会実施規制(EU)2021/535 発行 ...	29
EU: CENELEC: 新規格リスト	30
EU: ETSI: 新規格リスト	33
UK: 製品安全: グレートブリテンに関して、2021 年 1 月 1 日から何が変更されたか? (2/3)	33
中国: CNCA: 強制製品単位のさらなる統合ならびに変更手順の合理化に関する CNCA 通知	36
中国: CQC: 手持式電動工具の安全及び EMC 認証規則における新版規格要求事項の実施	36
中国: CQC: 新エネルギー発電設備用特殊ケーブルの安全認証実施規則の改正に関する通知	37
中国: CQC: II 型任意認証に用いる低電圧開閉装置及び制御装置等の 4 規格の改定	37
中国: 新規格リスト	38
台湾: 新規格リスト	38
韓国: RRA: 放送通信規格の改正と制定予告: モノのインターネットアプリケーション等	39
韓国: KATS: 安全確認対象の生活用品の安全基準 (ポータブルレーザ用品) の改正 (案)	39
総務省: 令和 2 年度無線設備試買テストの中間結果報告 (第 2 次)	40
総務省: 情報通信審議会 情報通信技術分科会 (第 156 回) 配付資料等: 2.3 GHz 帯活用	40
経済産業省: 電気用品、ガス用品等製品の IoT 化等による安全確保の在り方ガイドライン	41
経済産業省: 日本産業規格(JIS)を制定・改正しました (2021 年 4 月分)	41
経済産業省: 防爆ドローンの要件に関するガイドラインを取りまとめました	42
経済産業省: 実践的な AI 人材育成のためのデータ付き教材の提供を開始します	42
経済産業省: 磁気ディスク装置、ガス温水機器、石油温水機器の新しい省エネ基準を策定	43
国土交通省: 乗用車の先進安全技術の性能認定結果を公表します!	43
国土交通省: 建設機械の安全装置に関する技術の技術比較表を公表します	44
厚生労働省: QMS 省令 (省令第 169 号) の一部改正が公布されました	44
ちょっといっふく〜小クイズコーナー IPT (inductive power transfer)について	18
コスモス・コーポレーション: 自動車部品の耐水試験についてのご案内	28
社長の独り言	45



IEC: 規格解説: CISPR 14-1 Ed. 7.0 (2020-09) 家庭用器具、電気工具等 - エミッション(1/2)

CISPR 14-1 Ed. 7.0 電磁両立性 - 家庭用器具、電気工具、及び類似機器 に対する要求事項 - Part 1: エミッションが、2020-09 付けで、発行された。おもな内容を紹介する。

- 適用範囲: 適用範囲機器に、無線送信/受信機能を組み込んだ製品、及び IPT(誘導電力伝送) を利用する本文書の範囲内の機器も含むよう、変更された。
- 妨害の限度値: 無線妨害の限度値への評価対象周波数範囲が、従来の 9 kHz - 1000 MHz から、9 kHz - 6 000 MHz と拡張された。
- 不連続妨害でのクリック率 (5.4.2.3): 適合判断時に使用されるクリック率は、4 つの周波数 (150 kHz、500 kHz、1.4 MHz、および 30 MHz) のそれぞれについて個別に計算する。これは前版において、「150 kHz および 500 kHz で実施。 500 kHz で決定されたクリック率は、1.4 MHz および 30 MHz での分析にも使用する。」から変更になったもの。
- 附属文書 A (規制的) 特定の機器の標準動作条件と通常の負荷: 本附属文書は各種の特定の機器の標準動作条件と通常の負荷を定めているが、今版では、「A.8.11 ロボット機器」に大幅な変更が加えられ、「A.10 電磁調理器以外の IPT を利用する機器」が、新規追加された。

USA: FCC: KDB: TCB が機器認可の承認を出す前に FCC ガイダンスが必要なデバイスとは？

- 発行番号: 388624。TCB が機器認可の承認を出す前に FCC のガイダンスが必要なデバイス、ならびにガイダンスを得るための手続きに関する質問と回答。
- 388624 D02 事前承認ガイダンスリスト v17 が 04/20/2021 付で発行され、388624D02 事前承認ガイダンスリスト v16r12 を置き換えた。大幅な変更である。

USA: FCC: Part 2, 20, 68: 補聴器両立性携帯電話機に関する FCC 規則の改正

- FCC 規則は、補聴器両立性携帯電話機モデルは、必ず音量調節要求事項を満たさなければならないと規定する。これに対応させ、携帯電話機が音量調節仕様を満たすことを要求している 2019 年版 ANSI 規格を FCC 規則に含めるよう、FCC 規則を更新した。

USA、日本: 国際エネルギースタープログラム: 制度要綱と運用細則の発表

- 令和 3 年 4 月 1 日施行で運用細則、及びコンピュータ、ディスプレイの運用細則分割版、届出書が発表になった。

EU: EMC 指令, 個人用保護具指令: 整合規格サマリーリスト更新

- (1) EMC 指令整合規格サマリーリスト、2021/04/07 付け更新があった。(2) 個人用保護具指令関連整合規格サマリーリスト、2021/3/8 付け更新があった。

UK: 製品安全: グレートブリテンに関して、2021 年 1 月 1 日から何が変更されたか? (2/3)

経済産業省: 電気用品、ガス用品等製品の IoT 化等による安全確保の在り方ガイドライン発行

社長の独り言

2021 年 4 月 20 日
濱口 慶一

新型コロナウイルスの変異株がますます猛威を奮ってきていますが、皆様もどうか監督省庁の指導に従って密を避け、マスクの使用などを徹底して乗り切りましょう。ワクチン接種の方も少し遅れ気味ですが、かなりの効果があるようなので、ワクチン接種が行きわたり、感染しにくい身体にして、新型コロナウイルスを追い出したいものです。

個人的な話になりますが、4 月から新潟の長岡科学技術大学の修士課程でシステム安全工学を専攻しています。コロナ禍で通学はできませんが、講義のある日はリモートでの受講を楽しんでいます。教授の中には元監督省庁の出身の方もいらっしゃるのですが、講義中に“先生、それについては、今の法律ではこうですが？”と反論(?)したりします。また、私の意見を同期の生徒(私と同じ年配者もいます)が後押ししてくれた時には、教授から“WEB 飲み会で議論しましょう”とはぐらかされたこともあります。世間の裏話も聞けたりして、今は講義が楽しくてしょうがない状態です。一応修士課程ですので、修士論文の作成作業に入ると緊張し、苦痛だなど思うこともあります。間もなく七十三歳を迎える今、製品安全に関わる勉強の機会に触れたことは、私の人生にとってそれなりに意味があったと思いたい一方で、もう少し早く系統的に製品安全を学びかったとの思いも日に日に積み上げてきており、複雑です。また、新潟の長岡の大学へのシステム安全工学の修士課程がどなたの努力の結果で創設されたのかも知りたいところです。

製品が安全であることの判断には、設計開発する人やその人を雇用する側が、機器を使用する操作者や設置環境にいる側の人たちの生命や財産を守るという“立ち位置“でいることが最も重要では、最近考えていたところです。機器の製造コストは、設計開発者が考慮しなければならないファクターの一つですが、コストを優先して安全性が損なわれることはあってはなりません。ある意味人間性が問われるといっても良いかと思います。経営にも人間性が求められることは、明治時代の渋沢栄一氏の論語経営や、稲盛和夫氏の多くの著書でも述べられています。そのことをもっと深く突き詰めたいという欲が、自分でも“何故今頃？”と思うのですが、むくむくと湧き上がってくるのです。昔、私の在職していた会社が京セラグループに買収され、京セラ伊勢工場になりました。京セラグループでは私は新参者でしたから、学校のホームルームのような時間を設けられ、職場の仲間と京セラフィロソフィーを読み合わせした覚えがあります。当時私はグループ長でしたので、内容や感想に対して稲森氏の考えに基づいた解説をしないと、17 名のスタッフから突き上げられる結果が待っているため、日夜独習したものです。“私利私欲を求めない“のが人としての生きる方向であると、稲盛社長が直に私に教育してくれたことを思い出します。

さて、桜の花も散り、日本蜜蜂の巣にはたくさんの蜜が蓄えられ、それをもって新しい群を作ろうという分蜂の時期になったのですが、今年は学業があり、日本蜜蜂の世話に時間が多分取れないだろうと考え、空箱は用意したものの、積極的に養蜂はしないと決意しました。秋の大雀蜂の襲来も日本蜜蜂にとっては大きな脅威であり、これまでに六群いた日本蜜蜂達が全滅させられてしまいましたが、新たにそれを取り除いてあげる時間も少ないだろうと考えた判断です。空箱に群の入居があれば、次号で報告させていただきます。

● ニュースレターの内容

本誌は、**EMC、安全、及び省エネ (EMC, Safety and Energy Conservation)** 分野に係り、世界の主要機関/地域により実施されかつ電気電子製品デバイスに適合が求められている規格/法規制について、その関連情報を、お届けいたします。

重要情報を幅広く調査、収集、かつ、要約して掲載し、当該分野の最新情報、潮流をすばやく捉えることができるようにいたします。情報源を明示しますので、貴殿の関心により、更に深い調査が可能です。

本誌は各国への技術法規適合製品を試験 認証 開発 管理される部門の方にとり必読の内容です。

- 対象機関/地域: IEC 等国際機関、並びに、FCC, UL を含む米国、EU, CENELEC, CEN を含む欧州、その他オセアニア、及び日本を含むアジアの各地域
- 情報源: カバー対象の機関、地域の Web site、或は情報サービス。又、ご協力のご同意を頂いた日本国内及び米国・欧州・中国・韓国・台湾などの当該分野権威者から提供された情報。

● 本誌購読のお申し込み方法

コスモス・コーポレイション CS 部 (カスタマーサービス部) まで Yamashita-jun@cosmos-corp.com
Tel 0598-30-5225 Fax 0598-30-5571

- 発行: 年間 11 回発行。各号 A4 版、40 ページ前後。
- 価格: 各号 2,000 円 (年間購読の場合 1 年 11,000 円)(消費税込)

● 本誌の内容案内、ご購入案内は、<https://www.safetyweb.co.jp/services/other/publication/>

本誌の記事が正確であるよう最大の努力を払っておりますが、間違いが含まれていることがあるかもしれません。本情報をご使用になられる場合はご自身でもう一度ご確認ください。

株式会社コスモス・コーポレイションは、下記 Web site の運営体からそれぞれ個別の条件の下、Web 情報の引用、転載につき許可を頂いております。翻訳転載された記事の著作権は原著作権者に属します。本誌掲載記事の無断転載を禁じます。本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。

国際機関	IEC: International Electro technical Commission	国際電気標準会議
米州	A2LA: American Association for Laboratory Accreditation	米国試験所認定協会
	ANSI: American National Standards Institute	米国規格協会
	FCC: Federal Communications Commission	連邦通信委員会
	IEEE: Institute of Electric and Electronics Engineers	米国電気電子学会
	CSA: Canadian Standards Association	カナダ規格協会
欧州	CENELEC: European Committee for Electro technical Standardization	欧州電気技術標準化委員会
	ECO: European Communications Office	欧州通信オフィス
	ETSI: European Telecommunications Standards Institute	欧州電気通信標準協会
	EU/EC: European Union/European Commission	欧州連合/欧州委員会
オセアニア	ACMA: Australian Communications and Media Authority	オーストラリア通信/メディア局
	NZ: New Zealand Government Radio Spectrum Management	ニュージーランド政府 RSM
アジア	BSMI: Bureau of Standards, Metrology & Inspection	台湾經濟部標準檢驗局
	CNS: Chinese National Standards Online Service	台湾中国国家規格検索システム
日本	METI: Ministry of Economy, Trade and Industry	経済産業省
	MIC: Ministry of Internal Affairs and Communications	総務省
	NPB: National Printing Bureau	独立行政法人国立印刷局
	VCCI: Voluntary Control Council for Interference	一般財団法人 VCCI 協会

Cosmos Corporation is granted the copyright authorization for the reproduction of the Web site information from the above listed organizations with the individual condition. Further use, modification, redistribution of the information on the Cosmos Newsletter on EMC & Safety is strictly prohibited.

コスモス ニュースレター EMC &安全 (Cosmos Newsletter on EMC & Safety) 2021-05-01 (No. 130)

発行所: 株式会社コスモス・コーポレイション 本社・松阪事業所

住所: 〒515-1104 三重県松阪市桂瀬町 718 番地 1 ホームページ: <https://www.safetyweb.co.jp/>

発行人: 濱口慶一

編集人: 倉口光雄 iNARTE 認定 Certified EMC Engineer (EMC-002315-NE)

© 2021 株式会社コスモス・コーポレイション Cosmos Corporation

本誌の複製、再配布は電子的なものを含み禁じます。